





国語，数学，理科(化学，生物)問題

はじめに，これを読みなさい。

1. これは，国語，数学，化学，生物の4科目の問題を綴じた冊子である。必要な科目を選択して解答しなさい。食料環境政策学科受験者は「国語」が必須である。
2. 問題は，数学，化学，生物については表面から62ページ，国語については裏面から12ページある。ただし，ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
3. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか，受験票と照合して確認すること。
4. 監督者の指示にしたがい，解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
5. 監督者の指示にしたがい，解答用紙にある「解答科目マーク欄」に1つマークし，「解答科目名」記入欄に解答する科目名を記入しなさい。なお，マークしていない場合，または複数の科目にマークした場合は0点となる。
6. 解答は，すべて解答用紙の所定欄にマークするか，または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。解答番号は各科目の最初に示してある。
7. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
8. 解答は，必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入のこと。
9. 訂正する場合は，消しゴムできれいに消し，消しくずを残さないこと。
10. 解答用紙は，絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
11. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず，必ず提出すること。
12. この問題冊子は必ず持ち帰ること。
13. マーク記入例

良い例	悪い例
	  

国 語 問 題

はじめに裏返して表紙の注意事項を必ず読みなさい。

- 1 この問題は 12 ページあります。
- 2 解答番号は 1 ～13, 101～107, 201～203 です。
- 3 数学・化学・生物は裏面から順にあります。

(解答は解答用紙に横書きで記入すること。解答番号は1〜13、101〜107、201〜203)

(一) 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

考えることはもとより論理的なためであるが、同時にかならず倫理的な実践でもある。倫理的な構えがなければ、すなわち他者に通じさせよう、他者と思いを共有しようとする意志がなければ、論理は成立しない。論理とは説得への意志であり、普遍への意志である。論理とは他者の承認なしには満足できない人間の自己の欲望に動機づけられていると考えてよい。

幼児と暮らしたことがある人ならだれでも、その存在のあきれるほどの身勝手さに思わず笑ってしまった経験があるはずだ。自分がかまわれてさえいれれば満足、ちよつとでもこちらの注目が移れば無理矢理に引き戻そうとする。おとなの会話のなかで自分が話題になつていのかどうかを敏感に察知する。しかしその身勝手さに他意はなく率直きわまりないから、むしろ微笑ましくも感じられる。

またいかなる暴君であろうと、強大な暴力だけでは支配をカ^aンテツすることができない。なによりも暴君自身が人民の承認を希求している。むしろ自発的な承認である必要はない、大規模に動員された承認の儀式があればよい。そして二十世紀の絶対的支配者はすべて大文字の「父」であらんとした。

人間とはどうやら生まれ落ちたそのときから他者の承認を求めてやまない存在のようである。十九世紀ドイツのヘーゲルが唱え、二十世紀フランスのコジエーヴが敷衍した「自己の欲望は他者の承認なしには満足できない」、¹「自己の欲望は他者の欲望を欲望する」という原理も、そんなに格別のことを言っていたわけではなさそうだ。

母親に代表される周囲の愛情というかたちで一方的に承認をあたえられていた赤ちゃんの自己の欲望は、やがてその愛情を促し強化するためにみづから母親にはたらきかけるようになる。母親が望むように行動することで、母親からの承認を確実なものにすると同時に、母親の喜びをみづからの喜びとして喜ぶことが出来るようになるのである。このとき赤ちゃんは母親の欲望を欲望していると言つていいだろう。この自分の自己をきちんと承認してもらうという幼児期の基本的な体験が、その後の自己を形成していくうえで大きな役割をになうのはいうまでもない。

このようにおとなのなかに生まれてきた子どもは両者の X 的な関係のなかで自己を育てていくのだが、おとなに承認してもらいたいという子どもの希求はまだ欲望そのままの表現の段階にとどまっている。ふつうおとなには子どもの自己を承認してあげる余裕が備わっているし、子どもも自分を承認してくれるおとなに信頼の気持ちを寄せているから、両者の関係はかなり予定調和的だ。

しかし子どもの世界にもやがて横並びの異質な他者という存在に直面しなければならぬ時がやってくる。² この不可解な他者を認めるのか認めないのか。むろん認めずに人間社会を生きていくことはできない。「承認」を互いに求めて交通・抗争するなかから次第に「相互承認」という暗黙のルールが生まれる。

ここにはじめの「倫理」が成立する。みづからの欲望を認めてもらい、「われ」という主体を承認してもらうためには、「われ」に承認をもとめる他者の「われ」という存在とその欲望をも承認しなければならぬからだ。逆から言えば、この相互承認のなかではじめて「われ」の輪郭もくつきりと浮かび上がる。この倫理の雛型はすでにおとなの社会に用意されているので、子どもはひとまずそのルールを受け入れ、内面化することが要請される。

では他者の存在とその欲望をみづからの存在と欲望にひとしいものとして認める主体的な契機はどこにあるのだろうか。³ 五分の打算なのだろうか。「万人の万人に対する戦い」を回避する手立てとして、やむを得ざる処置として他者を承認するのだろうか。いや、そのような契機とは異なるレヴェルで、そのような契機に先立って、私たちはリハーサルを経ているのである。

まず祖型(プロトタイプ)として存在するのは、かつて母親やその他の養育者とのあいだに築かれた関係である。幼児はまわりのひとの欲望を満足させることによってみずからの欲望を実現させることを繰り返すなかから、お互いがお互いを承認するという人間関係のゲームを学び始める。この非対称的な相互承認の経験のうえに、ひとは友だち関係や恋愛関係という対称的な人間関係のゲームを経験していくだろう。このとき他者の欲望はしぶしぶ認めなければならぬ対象であるよりは、むしろお互いを認め合うことでみずからの欲望を満足させることができるひとつの可能性として受け止められるのではないだろうか。これが第一の情愛的な契機である。しかしこの情愛的な契機がそのまま社会的な契機に発展するわけではない。

第二の契機は言葉を使用することである。言語は話し手と聞き手のあいだに交わされる応答関係のなかでしか成立しない。もう三十年以上も前の話になるが、我が家に最初の子どもが生まれ、まだひと月ぐらいしか経っていなかつた頃のことだ。勤め先から帰宅した私を待ち構えていたように、妻が目を輝かせて報告した。「××ちゃんはお利口さんなのよ。わたしにお話するの」。妻が話しかけると赤ちゃんのほうでも口をすぼめ、ホーホーといつて応答するというのだ。これがあとにも先にもわが夫婦の最も感動的な会話であつたかもしれないのだが、しかしどの家族でもかならず経験する出来事であるだろう。言語それ自体は人間にセイトク的なものではないが、言語習得能力、あるいはそれ以前の応答能力というものが生まれつき備わっていなければ言語を獲得することはできない。

⁴言語という抽象的な記号体系は、人称代名詞の機能に象徴的にあらわれているように、自己中心的な世界に止まることを許さない。対話のなかで「私は」と語りだした語り手は、話し終えた途端におなじく「私は」と語りだすもうひとりの語り手の聞き役に転換している。この聞き手は次の瞬間にはまた話し手に変身し、話し手は聞き手に変身する。この相互性と対等性がなければ言葉によるコミュニケーションは成立しない。⁵言語に備わつたこの人称的世界は「私」という存在の相対性をしたたかに思い知らせてくれるのである。

幼児ははじめ、「カールは食べたい」というように自分のことを三人称で語っているが、あるとき「私」という一人称を習得すると、この日以後、以前の話法にもはや帰ることはない。それまでの幼児は自己を「感じて」いたにすぎなかつたのだが、いまや自

身で自己を「思惟」しているのだ。こう語つたのは十八世紀を代表する哲学者カントであった。

この一人称使用の機微をヘーゲルはつぎのように述べている。私が「私」と言つたときには、まったく個別的な自分のことだけを言い表したつもりでいるけれども、ほかのどんなひとでもこの「私」という言葉でみずからを言い表すことができる。つまり「私」と言つたときに、すでに「私」は個別の「私」と一般的な「私」に自己を二重化しているのである。

みずからを「われ」と発言するもの、それが「われ」にはかならない、と言表行為それ自体のなかに「われ」の本質を見出したのは、フランスの言語学者エミール・バンヴェニストであった。この話し手としての「われ」は聞き手である「あなた」に対して超越的な立場に立っているように見えるが、かならず「あなた」という存在とセットになつていて、互いに反転可能な関係にある。すなわち一人称は二人称の保証なしには成立できないと同時に、二人称によつてつねに脅かされる存在でもあるのだ。

他者の存在とその欲望を認める第三の契機は、言語の使用と平行して習得される人間関係の役割意識である。たとえば母親にべったり甘えていた幼児も妹や弟が生まれると、母親の期待にこたえて「お兄ちゃん」や「お姉ちゃん」に変身を遂げる。校長先生も日曜園芸教室では諸先輩に教えを乞う初心者かもしれないし、竿を握れば社長と社員の垣根を跳び越える『釣りバカ日誌』の世界もある。

単一の共同体のなかで身分に固定した役割をつねに背負っているのではないかぎり、ひとはさまざまな共同体を横断し、さまざまな役割のプレイヤーとして生きている。この役割意識のなかでわれわれは自他の存在の相互性と対等性を学んでいく。この役割関係の延長線上に、敵対的な人間関係の折り合いのつけ方という打算も学んでいくことになるだろう。

以上おおむね三つの相互承認の契機、すなわち情愛的な契機、言語的な契機、そして社会的役割の契機によつて、人間の論理の土壌が整備されると見てよいのではないだろうか。

(井崎正敏『考える』とはどういうことか?』より)

問一 二重傍線部 a・c のカタカナを漢字に直して書きなさい。解答番号は a が 、c が

問二 二重傍線部 b・d の漢字部分の読み方を平仮名で書きなさい。解答番号は b が 、d が

問三 傍線部 1「自己の欲望は他者の欲望を欲望する」とは、どういうことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

- A 母親が喜んだことに対して、子どももまた自分なりに喜んだふりをする事。
- B 母親からの愛情を独占するために、子どもがわざと身勝手なことをすること。
- C 他者から自己の欲望の承認を得るために、おのずから他者の欲望を承認すること。
- D 他者からの愛情を得るために、やむを得ず他者の存在を承認しようとする事。
- E 他者からの愛情によって必要な欲望を与えられ、正しく自己形成すること。

問四 傍線部 2「この不可解な他者を認めるのか認めないのか。むろん認めずに人間社会を生きていくことはできない」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

- A 他者を疑うことなく認めることによって、はじめて自己も承認してもらうことが可能となるから。
- B 他者を認めることなしには、自己を承認してもらうことが不可能であるから。
- C 相互承認という倫理的な実践によって、異質な他者の正体を知ることが可能となるから。
- D 相互承認という暗黙のルールを内面化することによって、人間関係のゲームを楽しむことが可能となるから。
- E 相互承認という支配的なルールを正しく理解することによって、はじめて生きることが可能となるから。

問五 傍線部3「五分五分の打算」とあるが、ここでいう「五分五分の打算」とはどういうことか。「く」を考えるとということ。「い」う語句に続くように、その説明として適切な部分を本文中から十七字以内で抜き出しなさい。(句読点や記号等がある場合は、それも一字とする)。解答番号は 201

問六 空欄 X に入る最も適切な言葉を本文中から抜き出しなさい。解答番号は 105

問七 傍線部4「言語という抽象的な記号体系は、人称代名詞の機能に象徴的にあらわれているように、自己中心的な世界に止まることを許さない」とあるが、それはなぜか。傍線部4より前の本文中から、その理由に当たる部分を四十字以内で抜き出し、「くから」という文末に続くように、その最初と最後の五字を答えなさい(句読点や記号等がある場合は、それも一字とする)。解答番号は 202

問八 傍線部5「言語に備わったこの人称的世界は「私」という存在の相対性をしたたかに思い知らせてくれるのである」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 3

- A 「私」という「話し手」は、「あなた」という「聞き手」と二重化されることで、より存在感を増すから。
- B 「私」という「話し手」は、「あなた」という「聞き手」の欲望に合わせて成立する存在であるから。
- C 「私」という一人称は「あなた」という二人称と、二重の意味で使用することが可能であるから。
- D 「私」という一人称は「あなた」という存在を前提にしており、相互に転換可能であるから。
- E 「私」という一人称を習得することで、感覚的な世界から思考することが可能となるから。

問九 傍線部6「人間関係の役割意識」とあるが、ここで言う「人間関係の役割意識」とはどのようなものか。その例として最も適

切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 4

A 会社員の男性が休日に、近所の少年サッカーチームのコーチをすること。

B 近所に住んでいた男の子がやがて成長し、優秀な大学生になること。

C 野球選手が、監督のアドバイスによって投手から野手に転向すること。

D 用事ができた母の代わりに、近くの青果店へ夕飯の食材を買いに行くこと。

E 吹奏楽部の一員として活動し、周囲からも大いに評価を受けること。

問十 次のA～Eのうち、本文の内容と合致するものを一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 5

A 論理とは、真理の探求をめざす人間の欲望に根ざしているものであり、論理が成立する基盤には、自己と他者の相互理解が必要不可欠である。

B 歴史上の支配者は暴力だけで人民を支配することができなかつたので、自分の存在を自発的に承認させるために、常に盛大な儀式を行ってきた。

C 子どもは母親や大人から与えられる愛情を引きだすために、さまざまなたらきかけを行うが、その関係は破綻することなく調和的に維持されていく。

D 「われ」と「あなた」の関係は反転可能なものであり、「話し手」と「聞き手」の存在も二重化しているので、人称的な区別にはあまり意味がない。

E 互いの欲望を承認することで、人ははじめて社会的な存在となる契機を獲得し、親子関係や友人、恋人といった、人間関係の雛形を身につけることが出来る。

(二) 次の文を読んで後の問に答えなさい。

今は昔、天竺の海のほとりに一つの山あり。一つの猿ありて、木の実を食して世を過ぐす。そのほとりの海に二つの亀あり。夫婦なり。

妻の亀、夫の亀に語りていはく、「われ、汝が子を懐妊せり。しかるにわれ、腹に病ありて定めて生みがたからむ。汝、われに薬を食はせば、わが身平らかにて汝が子を生じてむ」と。夫、答へていはく、「**X**」と。妻のいはく、「われ聞けば、猿の肝なむ、腹の病の第一の薬なる」といふ。夫、海の岸に行きて、かの猿に会ひていふやう、「汝がすみかにはよろづのもの豊かなりや否や」と。猿答へていはく、「常には乏しきなり」と。亀のいはく、「わがすみかの近きほとりにこそ四季の木の实、草の实たえぬ広き林はあれ。あはれ、汝をその所へ^②ゆきてあくまで食はせばや」と。猿、たばかりるをば知らずして喜びて、

「**Y**」といへば、亀、「さらば、いざたまへ」といひて、亀の背に猿をのせてゐてゆく。亀の、猿にいはく、「汝、知らずや。まことにはわが妻懐妊せり。しかるに腹に病あるによりて、猿の肝なむその薬なると聞きて、汝が肝を取らむがためにたばかりてゐてきたれるなり」と。猿のいはく、「^①汝、はなはだ口惜し。われを隔つる心ありけり。いまだ聞かずや、われらがともがらはもとより身の中に肝なし。ただかたはらの木に掛け置きたるなり。汝、かしこにていはましかば、わが肝も、また他の猿の肝も取りてたてまつりてまし。たとひみづからを殺したまひたりとも、^ウ身のうちに肝のあらばこそ、その益はあらめ。極めて不便なるわざかな」といへば、亀、猿のいふことをまことと信じて、「さらばいざめて帰らむ。**Z**」といへば、猿、「そはい

と安きことなり。ありつる所へだに行きつきなば、^エ事にもあらぬことなり」といへば、亀、前のごとく背に乗せてもとの所に到りぬ。

うち下ろしたれば、猿、下るるままに走りて、木の末にはるかに上りぬ。見下ろして、猿、亀にむかひていはく、「^オ亀、はかなしや。身に離れたる肝やある」といへば、亀早くたばかりつるにこそありけれと思ひて、すべき方なくて、木の末にある猿にむかひて、いふべきやうなきままに、うち見上げていはく、「猿、はかなしや。いかなる大海の底にか木の実はある」といひて海

に入りけり。

昔も獣はかくはかなくぞありける。人も愚痴なるはこれらがごとし。かくなむ語り伝へたるとや。

〔今昔物語集〕

問一 ※の段落を、話の展開に即して三つの段落に分けるとした場合、その二番目の段落はどこからどこまでか。その最初と最

後の五字を答えなさい(句読点や記号等がある場合は、それも一字とする)。解答番号は

203

問二

空欄

X

Y

Z

にはどのような意味の文が入るか。それぞれの選択肢から最も適切なものを一つずつ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

8

空欄

X

A 安産のためには何が有効なですか

B 薬を入手するにはどうすれば良いでしょう

C その薬とはどのようなものですか

D どうか無事に私の子を産んで下さい

E 何か食べたいものはありますか

空欄

Y

- A いつも恵まれた環境にいたいものです
- B 是非ともそこにご案内いただきたい
- C どうすれば豊富な食料を手に来ましょう
- D 他のみんなにも教えてあげたいですね
- E 本当かどうかあやしいものですね

空欄

Z

- A 背中にお乗り下さい
- B 案内を頼みますよ
- C 望みの物は頂けるのでしょうか
- D まさか嘘ではないですね
- E 私の願いは切実なのです

問三 二重傍線①「た」、②「ぬ」に当てる漢字として、最も適切なものをそれぞれの選択肢から一つずつ選び、その記号をマーク

しなさい。解答番号は①が

9

②が

10

- ① 「た」——A 絶
- B 断
- C 耐
- D 堪
- ② 「る」——A 居
- B 要
- C 射
- D 率

問四 傍線ア「あくまで食はせばや」を分かりやすい現代語に直しなさい。解答番号は

106

問五 傍線イ「汝、はなはだ口惜し」とあるが、どのようなことについて「口惜し」と言っているのか。次の中から最も適切なものを

一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

11

- A ないがしろにしたこと
- B 率直に相談しなかったこと
- C 身勝手な申し出をしたこと
- D だまして計略にはめたこと
- E 気の毒な事情を抱えていたこと

問六 傍線ウ「身のうちに肝のあらばこそ、その益はあらめ」の意味するところとして、最も適切なものを次の中から一つ選び、

その記号をマークしなさい。解答番号は

12

- A 身体の中に肝があるわけではないので、殺したところで意味はないのです
- B 肝は身体の中にあるからこそ、その役目を果たすことが出来るのでしよう
- C 身体の中に肝があるので、こうして生きてお役に立つというものです
- D 身体の中に肝があるのならば、薬としての効用もあるはずですから
- E 肝は身体の中にないからこそ、かえって有効に働くというものです

問七 傍線工「事にもあらぬことなり」の「事」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 13

- A 大仰なこと
- B 奇異なこと
- C 大切なこと
- D 大変なこと
- E 特殊なこと

問八 傍線オ「亀、はかなしや」とあるが、この「はかなし」とはほぼ同じ意味となる単語を、本文中から三字以内で抜き出して答えなさい。解答番号は 107